

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271300396
法人名	医療法人社団 大塚会
事業所名	グループホーム からこ
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市森山町唐比西1125番地2 (電話) 0957-36-0030

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 4月 8日	評価確定日	平成20年9月25日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10/8 人	常勤	6/5人, 非常勤 4/3人, 常勤換算 5.9/5.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造	
	1 階建ての	階 ~

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,340 円	その他の経費(月額)	9,450 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,050	円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 社団大塚会 唐比病院、鶴田歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長は約20年前に地域に根ざした医療を目指して病院を設立し、地域住民の高齢化に伴って病院や老人保健施設等ではなく、個人のニーズに応えられるような老人専用施設の構想を基に、地域での必要性を感じてホームが開設された。主要道路から一歩入ると桜並木が拡がり鳥のさえずりが聞かれ、玄関先には懐かしいフィギュアや生け花が飾られホームの中はホッと寛げる空間になっている。マンネリ化を防ぎ長所短所の検証をし“先に一歩踏み出そう”と昨年度から法人全体で他部署による他者評価を行ない、今年度からグループホーム協議会の他者評価に取り組み、ケア技術の向上や知識の取得に日々励んでいる。ご利用者やご家族に安心感を持って頂き情報を共有するという点で“介護支援専門員を基礎知識”と位置づけ、職員の資格取得に向けて法人内で勉強会を開き、職員のみならず外部の方も参加でき、内部外部問わず介護に当たる人材を育てていきたいという姿勢が感じられる。“ご利用者にとって、楽しく安心できる家”を自分で考えて行動する事や意見を反映させる事で、責任の大きさもある反面、達成時の喜び・仕事に対するプライドを職員は持っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ①介護計画は『入居者自身の計画』という視点で、入居者が言われた言葉や易しい言葉で表現され作成している②感染症対策の研修会の参加や情報収集を行い、フキンや手すりの消毒等の事前対策や予防措置を取っている③緊急時の手当について外部研修へ参加し伝達講習・内部研修を行い、全職員が適切に対応出来るレベルに到達するよう引き続き実施していく
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は一歩先に踏み出したい、地域に貢献できていないのではという思いを基に、他者の率直な意見をケアに反映させていく事を説明し、職員は自己評価を行う中での気付きや、改めてケアを考える良い機会となっている。自己評価で出来ていないと職員が考えている項目について話し合い改善の取り組みを継続している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の日程について事前に電話をしたり自宅に議題に関する資料をお持ちし、ご要望等を基に中断していた法人の秋祭りを再開し“子供浮立”を披露して頂いたり、ホーム行事を回覧板や地域の掲示板に貼って頂き、地域との付き合いが広がってきている。法人の企画業務課長が市の窓口を定期的に訪れ介護保険の手続き、ホーム行事の案内等の情報提供を行ったり、ご利用者の状況等をお伝えしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご利用者の暮らしぶり・健康状態や職員の異動についてご家族の来訪時にお伝えし、何かあった時は電話で報告したり金銭管理について個々に合わせた報告をしている。遠方のご家族には計画原案をお送りする時に行事の時の写真、生活状況について手紙を書き同封したりご本人と電話でお話して頂いている。ご意見箱を設置や法人内の苦情・相談委員をお伝えし、ご家族来訪時に「何かあれば言って下さい、出来れば悪い所を教えてください」と繰り返しお話し、頂いたご意見は会議で報告し職員も含め対応策を話し合っている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内の運祭り・看護学校の文化祭見学や高校のブラスバンドを聞きに行ったり、文化祭でご利用者と一緒に行ったり、地域の‘春らんね祭り’で病院職員と共に健康相談・介護相談を行っている。ご利用者手作りの旗を持って、地区運動会・マラソン大会に参加する職員の応援に行ったり、他事業所と共催の花祭りの垂れ幕にご利用者が色を塗ったり、露店の焼きそばの下ごしらえ等を行ない地域の方に来て頂いたり、小学生の社会科見学や高校生の職場体験等を積極的に受け入れている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長は地域に根差した医療を目指しており、高齢者が地域で生活し続ける為の必要なサービスとして、グループホームが設立される際に法人内で「お年寄りが好きな人」と希望者を募り、建ちあげから職員が関わってきた。職員は「ご利用者が楽しく安心できるホームは職員にも楽しく安心な職場」という考えと、ご利用者は自分の家族という思いを基に、住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう“明るいほほえみ、明るい手、明るいまなざし”という理念を、管理者と職員で話し合い作られた。	○	『皆が寄れる場所』をホームは目指し、理念の中にもその思いが込められており、家族や地域の方がいつでも気軽に来て頂くための取り組みを、職員と話し合っていきたいと考えている。地域に対する情報発信等、ホームの役割を果たす為にも地域の方に来て頂くだけではなく、ホームから出向いて行く姿勢で取り組む等、今後の取り組みに期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時に理念に込められた思いを伝えると共に、申し送りでの気付きや周辺行動の背景を考えたり、言葉使いやケアを掘り下げ理念に照らし合わせたり、全体ミーティングで事例を基にご利用者主体について話し合っている。連絡事項やヒヤリ・ハット対策等をホーム内で回覧し、情報を共有すると共にケアについて特に注意が必要な事や、何を大切にご利用者と向き合っていくか、常に理念を意識するよう指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の連祭り・看護学校の文化祭見学や高校のプラスバンドを聞きに行ったり、文化祭でご利用者と一緒に演奏したり、地域の「寄らね祭り」で病院職員と共に健康相談・介護相談を行っている。ご利用者手作りの旗を持って、地区運動会・マラソン大会に参加する職員の応援に行ったり、他事業所と共催の花祭りの垂れ幕にご利用者が色を塗ったり、露店の焼きそばの下ごしらえ等を行ない地域の方に来て頂いたり、小学生の社会科見学や高校生の職場体験等を積極的に受け入れている。	○	ご利用者が地域の一員として出来る出来ないが、運営推進会議の中でお尋ねしたり地域の方にも声をかけている。近隣の方と気軽にあいさつを交わす事が、地理的環境から難しい面もあるが、職員が地域の一員として活動に取り組むことから始め、ご利用者も一緒に出来る事を探したいと考えており、今後の更なる取組みに期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は一步先に踏み出したい、地域に貢献できていないのではという思いを基に、外部評価について他者の率直な意見をケアに反映させていく事を説明した。職員は自己評価を行う中で介護度が重度のご利用者へケアが偏っている事、言葉使いや地域との関わり等に気付き、改めてケアを考える良い機会となっている。自己評価で出来ていないと職員が考えている項目について話し合い、前回外部評価結果や法人内の第三者評価を基に、職員間で話し合い改善の取り組みを継続している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議日程について事前に電話をしたり自宅にお伺いし、議題に関する資料をお持ちしたりしているが日程調整が難しく定期開催には至っていない。自治会長よりホームを“子供浮立”の発表の場にとご要望があり、中断していた法人の秋祭りを再開し披露して頂いたり、ホーム行事を地域の方にお知らせしてはというご意見も頂き、回覧板でご案内したり地域の掲示板に貼って頂き、地域との付き合いが広がってきている。	○	運営推進会議に参加して頂く機会の確保のため、地域の方に声かけし貴重なご意見を頂く事や、会議の日程や開催時間・場所、議題等、定期開催に向けて運営推進会議に図り検討される事に期待したい。又、ご利用者が参加できるような方法についてや、堅苦しい雰囲気ではなく家族や地域の方も気軽に参加できるよう、会議という形式に拘らず行事の後に話し合いの場を持つ等、今後の取組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営に積極的に関わっている法人の企画業務課長が、市の窓口を定期的に訪れ介護保険の手続き、ホーム行事の案内等の情報提供を行ったり、ご利用者の状況等をお伝えしている。以前は“からこ便り”を定期発行し窓口にお持ちし、活動状況等について紙面でもお伝えできていたがここ数年中断している。	○	中断している“からこ便り”を再開し、ご家族や市への情報提供の一つの手段として利用したいと考えられている。お便りに掲載する写真や記載する内容等、個人情報の取り扱いに関してご利用者・ご家族のご意向をお尋ねしながら、職員と話し合い見る側だけでなく作る側も楽しめるような、ホーム便りの再開に向けた取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご利用者の暮らしぶり・健康状態や職員の異動について、管理者・介護支援専門員・リーダー的存在の職員が、ご家族の来訪時にお伝えし何かあった時は電話で報告したり、金銭管理は出納帳・領収書を確認後サインして頂く等、個々に合わせた報告をしている。遠方のご家族には、介護支援専門員が3ヶ月毎の計画原案をお送りする時に、行事の時の写真、最近の様子、生活状況について手紙を書き同封したりご本人と電話でお話して頂いており、今後は職員から定期的な電話報告を行いたい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し直接ホームに言いにくい事は、法人内の苦情・相談委員に言って頂くようお願いしているが特にご意見等はなく、ご家族来訪時に「何かあれば言って下さい、出来れば悪い所を教えてください」と繰り返してお話している。ご家族は“見て貰っている”という思いで苦情等を言い難いのではと考え、暮らしぶりなどお伝えしながら「ご利用者やご家族は威張っててください」と、自然な雰囲気の中で何でも言えるよう配慮し、頂いたご意見は会議で報告し職員も含め対応策を話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に法人内の職員異動はなく、調理や夜勤・宿直の専門職員を配置や休みの希望に極力応じたり、管理者による個人面談、職員用意見箱を設け直接言い難い事を書いて入れられるようにする等、勤務条件の改善に努めている。食事会、飲み会やホーム開設記念会等を通じて、職員相互や法人関係者との親睦を深めている。管理者が新規職員へオリエンテーションを行い、1～2ヶ月は先輩職員と一緒にケアを行いながら情報提供・指導を行ったり、結婚等による退職時は、ご利用者の状況に合わせて説明し共に幸せを喜びあっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や大村のグループホーム協議会の外部研修に参加し、伝達講習や毎月の内部研修で情報の共有を図り、法人内他事業所も含め持ち回りでテーマを決めて定期的に勉強会を行っている。管理者の“知識は行動の源”という考えのもと職員毎の経験年数・適性に応じて、資質の向上に向けた計画を立て職員個々にも伝え、目標に向けて必要な研修等を選択し受講を促している。法人職員が講師になって資格取得に向けた勉強会を法人内で開いたり、研修参加や受験に関する費用のサポート等もあり研修に参加しやすい環境は整えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のホームと共同して“諫早市グループホーム連絡協議会”を設立し、毎月の合同研修や交流会に職員も参加したり、協議会の中で家族会代表の方にご家族の立場から話して頂いたり、包括の方や消防署の方に緊急処置について講演して頂いている。法人内の資格取得に向けた勉強会に外部からも参加できるようにしたり、交流会で知り合った方と電話での情報交換や、管理者が知人を通して他ホームを見学したり、今年3月から1泊2日の日程で他ホームと相互に第三者評価の取り組みを始めた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者や法人企画業務課長がご自宅を訪問したり、ご本人・ご家族に見学に来て頂いて、顔馴染みの関係を作っている。入居を嫌がられていた時にホームから送り迎えを行い3ヶ月程体験通所をして頂き、1泊して頂くつもりがそのまま入居された方もおり、安心・納得してから入居して頂くようにしている。入居後もご家族に頻りに訪問して頂き、徐々に馴染みながら生活して頂けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「上手だとお聞きしたので教えて下さい」と、ご利用者に畑仕事や万十の作り方をお尋ねしたり、戦争や法事・お経について教えて頂き、ご利用者の活き活きした様子を見て職員も嬉しい気持ちになっている。排泄介助時に「ありがとう、汚いところを拭かせてごめんね」と、いつも言われる方が介助時に歌を歌われリラックスされている様子や、ご利用者から「あなたが来てくれて良かった」と言われ、待って下さっている事に感動したり救われたり、共に支えあう関係が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者やご家族に生活歴等をお聞きしご利用者の表情や行動を観察して、日頃の会話の中から望む暮らしや、どうしたいと思っているのか等の思いを汲み取っている。リハビリパンツを穿いているのは気持ち悪いのではという、職員の意見を基にご利用者本位に考え、日中は布パンツに替えその場に応じた対応が出来るようになってきている。意向の把握が困難な時は物品等を示して、ご利用者の様子を窺いながら出来る事を探したり、行動を共にして思いに近づけるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者一人ひとりの思いや生活歴等を踏まえ、ご本人が言われた言葉ややさしい単語で課題は記載されているが、目標が介護者の視点になっている部分や、日常的な外出も当たり前の事としてプランに盛り込まれていなかったり、現在行われているケアがポイントだけになっている方もいる。ご利用者・ご家族と話し合い医師・理学療法士からリハビリや、適切な補助具についての助言を計画に反映させているが、ご家族は「おまかせします」と言われる事も多く、ご家族の意見や気づきが反映できていないと感じている。	○	ご利用者一人ひとりの思い等を踏まえた個別・具体的な目標や、地域で暮らす視点を盛り込むと共に、現在行われているケアを手順書にして、ケアの留意点の統一を図りたいと考えている。手順書等でケアの内容が具体的に示される事で、ご利用者のホームでの生活状況も解りやすく、ご家族も率直なご意見等が言いやすくなり計画に反映され、更に個別的な計画になっていくと考えられ、今後の取組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、ご利用者やご家族の状態・要望に変化が生じたり、新たな気づきやご意見を頂いた時は設定した時期の前でも、臨機応変の見直しを行っている。ご利用者の体調等の変化がある場合は、毎月のミーティングで職員と話し合い検討しているが、特に変化がみられないご利用者についての検討は、毎月行っているとは言えない。	○	状態やご要望等の変化がある時の検討を継続すると共に、特に変化がみられないご利用者についても、定期的な見直しだけでなく変化の兆しやケアの変更の必要性等、月に1回程度は検討される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人医療施設と渡り廊下でつながり24時間いつでも相談できる体制で、法人内の看護師が様子見に來たり必要時は医師が往診に來られ、管理者が医師と情報交換しながら専門の入院治療が必要な時は、紹介状を書いて頂き他医療機関との連携も取れている。行きつけの美容院やお墓参り、職員が付き添って自宅に一時帰宅され昼食を食べられたり、外泊の日程調整・準備・薬や外泊時の留意点を書いてご家族にお渡ししている。地域の方のご要望等、必要に応じて相談しながらご支援したい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関をお聞きし、ご利用者・ご家族が納得・同意の上で協力医療機関を受診され、予約制で順番待ちの時間がなくご利用者の負担を軽減している。認知症や眼科等の専門科については以前からのかかりつけ医を受診して頂き、状態の変化がある時は電話での相談や受診時は、現状と経過を併せてお伝えし医師との信頼関係も築けている。職員が通院介助を行い、受診結果については変化があった時には速やかに報告しており、治療方針の決定等、必要に応じてご家族に同行して頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針を入居時に説明し、ほぼ全ご利用者・ご家族の意向を把握している。状態の変化やご家族の要望・状況が変わった時は、ご家族や協力医療機関の医師・看護師、職員も一緒にケアについてや対応できる範囲等について繰り返し話し合い、その都度意向を確認しながら、安心・納得した最期が迎えられるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者の性格等を把握し誘導時の声かけを変えたり声のトーン等を常に意識して、排泄介助や失禁時は自尊心・羞恥心に配慮し、さりげなく「ちょっとトイレに行きましようか」と小声でお誘いしているが、時には大きな声が出ている事もあり気付いた時に職員間で注意している。個人情報を書かれたメモ類等を捨てる際も手で破ったり、個人情報に触れる話を外部でしない事は勿論、情報漏洩防止について周知徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが取れるよう日課の声かけはするが無理強いはず、朝の体調を見ながらや時間をおいて、再度「行きましようか」と声かけする等ご本人のペースを尊重している。ご希望をお聞きして買い物にお誘いしたり、ご希望を表現されない方は日頃の生活習慣や表情からその日にしたい事を推察している。午後の体操に居眠りしながらも参加している方や、戸外に出られない時に回廊式の廊下を歩かれ運動を兼ねてリハビリをされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをお聞きして献立に盛り込んだり皮むき等の下ごしらえや味見、ランチョンマットの準備や下膳・食器の片付け、テーブル拭きをして頂いている。病院の畑で採れた胡瓜・茄子・トマトやじゃがいも・さつまいもを掘り、ツワやみかん等の旬の食材を採り入れ、他利用者を見た目が変わらないよう、色どりや味を考え食材毎にミキサーにかけている。職員も一緒に食卓につき楽しい雰囲気を作ったり、昼食を弁当箱に詰めて公園に出かけ食の細い方にも美味しく食べて頂けるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯・回数がある程度決め希望があれば毎日の入浴も可能で、その方に応じた声かけを行い、羞恥心等に配慮して同姓介助や一人での入浴、体調に応じて入っている時間・湯温、その時に応じて順番等の対応をしている。入浴を嫌がられ何日も入られない時は「先生が入るように言ってきましたよ」と促したり、下半身の脱衣を嫌がる方は無理をせず上半身だけ洗い、その後は容易に脱衣し入浴できたり仲の良い方と一緒に入ったり、菖蒲湯やゆず湯等を採り入れ入浴を楽しんで頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日声かけてご利用者と一緒に仏壇にお花を供えお参りしたり、食事の時に「食事が出来ましたよ」と隣室の方に声をかけて頂いたり、他のご利用者へ日課の説明をされたり、服のボタンかけを手伝われたり晩酌を楽しまれる方や、病院までゴミ捨てをお願いして一緒に歩いて頂き下肢筋力維持を図っている。職員の支援の度合いに差があり手を出し過ぎていたり感じる場面もあるが、ご利用者お一人ひとりの役割や楽しみ事を引き出せるよう、今後も積極的に支援を継続していく。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居前から行かれていた馴染みの海や公園、お宮への散歩や行きつけの美容室、お墓参りやドライブに行ったり、敷地内の畑で野菜の収穫、ホームの中庭や玄関先のベンチに座って景色を眺める等、気分転換・五感刺激の為に戸外で過ごす機会を作っている。ご利用者が一人で外出しようとする時は職員がドアを開け一緒に出掛けたり、希望をお聞きしながら外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	プライバシーの侵害や音による行動制限に配慮しながら、併設病院への通用口に鈴を付けたり、夜間は玄関のセンサーも利用しながら21:00～5:00迄の防犯上の施設以外はご利用者も自由に出入りできる。ご利用者の外出したい気持ちを察し外出に同行したり、一人で外出される時間や行動を把握し職員間で声を掛け合い、安全確認すると共に、近隣の方々に協力依頼をシガソリスタンドや法人職員から電話連絡を頂いたり、交番にご利用者の特徴をお伝えし外出の見守りをお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員・ご利用者・消防署・法人職員が参加し、火災を想定した避難訓練の実施や職員は法人施設の消防訓練に参加している。地元の消防団に災害時の協力依頼を行い、自動通報装置や防災無線により消防署・役場・消防団への連絡体制が整えられている。災害に備えペットボトルやカップ麺、ラーメン、充電式の蓄電器、懐中電灯・ランタンや毛布等も準備しており、今後も内容を充実させていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせて食材・調理法・味付けを変えたり、飲み物の種類を選んで頂き、食事量の記録や飲水の必要量が摂取できているかを把握し、居室での飲水や夜間自分で飲めるようにペットボトルに湯ざましを準備している。献立係は書籍等を参考にカロリー計算や栄養バランスを見ながら献立を作成し、定期的な体重測定・血糖検査の結果に基づき医師から治療食の助言を頂き、献立の参考にしているが個別の必要熱量までは算出していない。	○	法人施設の栄養士の協力を頂きながら提供した食事を基に、栄養バランスについての助言や個別の必要熱量を算出し、一人ひとりの状態に応じた、食の支援につながるような取り組みに期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族から頂いた花が玄関に飾られ、回廊式の廊下に満面の笑みのご利用者の写真や他事業所職員の手作り作品が飾られ、ホール・食堂・和室・リビングやホール前の廊下に椅子が配置され、自然と自分の座る場所が決まり隣合った方とお話をされ寛がれている。ホールの天窓にカーテンを取り付け光の強さを調整したり、ご利用者が天気の良い日に中庭で季節の花を観賞されたり、外に出られない時も中庭に咲くスミレやつつじが見渡せ、季節を感じられるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた鏡台や飾棚、テーブル・ソファ、引き出し式収納ケース、パイプハンガー、大正琴、ぬいぐるみ、テレビ、冷蔵庫、鉢植え等が置かれその人らしい居室作りをしている。ご本人・ご家族と相談しながら仏壇・お位牌を持ってこられ、お花のお供えやお参りをされたり、今までの生活習慣として晩酌を楽しまれる方もおられ、ご自宅と同じように寛いで過ごして頂いている。		